

市長挨拶



直方市長
大塚 進弘

直方市は、昭和6（1931）年1月1日の市制施行から、本年で90年を迎えます。

市制施行以前から、本市は長い歴史を重ねてきました。古くは天神橋貝塚の縄文時代から、直方藩が置かれた江戸時代を経て、石炭産業により日本の近代化を支えた明治・大正・昭和の時代へと発展してきました。これらの歴史を経て、本市の主要産業である製造業の高度な技術や技能の集積、歴史と伝統に支えられた文化、交通の要衝としての機能や豊かな自然など、誇るべき素晴らしい資産が今日まで受け継がれてきました。私たちは、これらの資産を有効活用して次代に向けて誇れるまちづくりをしていかなければなりません。

しかしながら、直方市は少子高齢化はもちろん、人口減少が進む中で、経済のグローバル化、急速なIT化などによる社会経済環境の急速な変化に加え、最近では、地球温暖化に起因する災害の激甚化など、著しく環境が変化していま

す。特に、昨年から猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、人々の生活様式を一変させ、社会や経済に大きな打撃を与えました。

このような時こそ、市民の皆様と行政が協働し、創意と工夫を施しながら、将来にわたり持続可能なまちづくりを行う必要があります。第6次直方市総合計画では、平成27（2015）年に国連で採択され、持続可能な社会の実現を目指すための目標として、行政だけでなく企業や個人などの枠組みを越えて様々な主体が取り組んでいる「SDGs（持続可能な開発目標）」の概念を取り入れました。また、地域の豊かさを測る指標であり、SDGsの評価指標としても注目されている「新国富指標」の概念もあわせて取り入れ、まちづくりの達成度合いを測りながら、将来に向けたまちづくりに取り組むことにしました。

今回の総合計画策定に際しては、次の世代の意見の反映を目指し、本市の将来を担うであ

ろう小中学生や高校生を対象とするアンケートを実施するなど、若い世代の皆様の意見をいただきました。

10年後の令和13（2031）年は、市制100周年を迎えます。今日私たちが受け継いできた豊かさを次の世代により豊かにしてつなぐため、この総合計画に基づいて様々な施策を市民の皆様とともに力を合わせて取り組んでまいります。

市民の皆様をはじめ関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

